

# 大学 e ラーニング協議会研究・実践報告テンプレート

- 副題 -

協議会 花子<sup>\*</sup>, 協議会 一郎<sup>\*\*</sup>, 協議会 二郎<sup>\*\*\*</sup>

\* 大学 e ラーニング協議会 第 1 部会

\*\* 大学 e ラーニング協議会 第 2 部会

\*\*\* 大学 e ラーニング協議会 第 3 部会

## Word Template for The UeLA

- Subtitle -

Hanako KYOGIKAI<sup>\*</sup>, Ichiro KYOGIKAI<sup>\*\*</sup>, JIRO KYOGIKAI<sup>\*\*\*</sup>

\* First committee, University e-Learning Association

\*\* Second committee, University e-Learning Association

\*\*\* Third committee, University e-Learning Association

**あらまし** - 本稿では、大学 e ラーニング協議会の研究報告および実践報告の書式について述べる。(400 字程度)

**キーワード** - e ラーニング, 反転学習, オープンエデュケーション (5 つ程度)

### 1 はじめに

本 Word テンプレートは大学 e ラーニング協議会での研究報告および実践報告用に構成されている。この Word ファイルには、それぞれの書式をスタイルとして設定している。

### 2 論文の構成

原稿の構成は、表題 (日本語), 著者名・所属 (日本語), 表題 (英語), 著者名・所属 (英語), あらまし, キーワード, 本文, 参考文献の順とする。

表題・著者名・所属・あらまし・キーワードは 1 段組とする。本文・参考文献は 2 段組とする。

#### 2.1 表題

##### 2.1.1 日本語

18pt, ゴシック体, 左寄せ。(副題は 12pt)

##### 2.1.2 英語

18pt, サンセリフ体, 左寄せ。(副題は 12pt)

#### 2.2 著者名・所属

##### 2.2.1 日本語

11pt, ゴシック体, 左寄せ

##### 2.2.2 英語

11pt, サンセリフ体, 左寄せ

### 2.3 あらまし・キーワード

あらまし・キーワードのフォントサイズは 9 ポイントとし、和文は明朝体、英文はセリフ体とする。ただし、それぞれ最初にゴシック体で「あらまし - 」, 「キーワード - 」と記載し、その後あらまし、キーワードを記載する。

キーワードは、発表内容に関連するものを 5 つ程度まで記載する。

### 2.4 本文

本文は、章・節・項、等の見出しをつけて読みやすさに配慮し、段落の最初は 1 字下げとする。見出し番号は表 1 のとおりとする。

本文のフォントサイズは 10pt とし、和文は明朝体、英文はセリフ体とする。

表 1 見出しの体裁

体裁	レベル	サイズ	フォント
1	章	12pt	ゴシック体
1.1	節	10pt	ゴシック体
1.1.1	項	10pt	ゴシック体
(1)	細別項目第 1 段	10pt	明朝体
(a)	細別項目第 2 段	10pt	明朝体
(i)	細別項目第 3 段	10pt	明朝体

## 2.5 参考文献

記述内容に直接関連のある文献は、本文中における該当箇所の肩上の（ ）内に番号を示す。本稿の最後に書籍と雑誌の場合の記載例を示す。

## 3 用紙サイズ・ページ数

用紙サイズは A4 判，上下余白は各 25mm，左右余白は 20mm とする。また，ページ数は指定が無い限り 2 ページとする。行数については，余白を変更せず，読みやすさを著しく損なわない限りにおいては，自由に変更できるものとする。

## 4 図表

図，写真，表は著者がオリジナルに作成したものを使用すること。また，そのまま印刷されるので明瞭になるよう配慮する。全ての図・写真・表は論文全体を通じて通し番号をつけ，それぞれにキャプションをつける。キャプションはゴシック体およびサンセリフ体とする。図・写真のキャプションは下欄に，表のキャプションは上欄に記載する。図・写真の例を図 1 に示す。



図 1 図・写真の例

## 5 その他の注意事項

本文の文体は，“…である”調とし，学術用語は文部科学省の規程があればそれに従うこと。

投稿原稿は，フォントを埋め込んだ PDF 形式とし，特に指定がなければ以下のメールアドレス宛に送付する。紙媒体による投稿は受け付けない。

ucla-editors@googlegroups.com

## 参考文献

- (1) 岡本敏雄，松田昇：“知的 CAI における幾何の証明計画の認識と学習機能について”，情報処理学会論文誌，第 30 巻，第 8 号，pp.1046-57（1989）
- (2) 日本情報処理開発センター編：“CAI システム”，日刊工業新聞社，東京（1972）
- (3) Rockart, J. F. and Morton, M.S.S.：“Computers and the Learning Process in Higher Education”，McGraw Hill, New York（1975）
- (4) 大学 e ラーニング協議会：“大学 e ラーニング協議会ホームページ”，<http://www.ucla.org>（accessed 2014.11.27）